



小室みえこの議会報告

発行：市民ネットワーク（小室みえこ・岡田さわこ）
野田市山崎 2694 C-302 Tel 7125-8539

子宮頸がん予防ワクチンの副反応を知る、考える、判断する

◇情報が不足していませんか？ ◇うちの子は副反応が出ませんでした！

◇即ち、ワクチン接種をしてしまいましたが、大丈夫？

◇野田市が接種見合わせを決めたから、騒がなくていいのでは？

今年4月、それまで任意で公費負担となっていた、子宮頸がんワクチンが定期接種となりました。これまでの予防接種の経緯からするとこのワクチンの定期接種への移行は驚くほど早かったのです。そのことも含め、情報が十分伝わっていない、本来十分周知しなければならない重要な情報がより効果への期待に重点がおかれていたのではないのでしょうか？「ワクチンで予防できるがん」との宣伝に過大な評価が加わったと考えられます。

【ワクチンの添付文書には、以下のことが最初に書かれています】

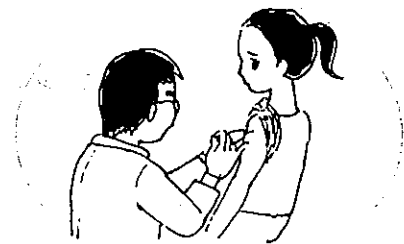
＜効能・効果に関する接種上の注意＞

- (1) HPV 6, 11, 16 及び 18 型以外のHPV感染に起因する子宮頸癌又はその前駆病変等の予防効果は確認されていない。
- (2) 接種時に感染が成立しているHPVの排除及び既に生じているHPVの病変の進行予防効果は期待できない。
- (3) 本剤の接種は定期的な子宮頸癌検診の代わりとなるものではない。本剤接種に加え、子宮頸癌検診の受診やHPVへの暴露、性感染症に対し注意することが重要である。
- (4) 本剤の予防効果の持続期間は確立していない。 〈Ⓞアンダーラインは加筆しました〉

そして、副作用の欄には、重篤な症状が書かれています。

＜重大な副反応＞

- 1) 過敏症反応（アナフィラキシー反応など）
- 2) ギランバレー症候群
- 3) 血小板減少性紫斑病
- 4) 急性散在性脊髄炎（いずれも頻度は不明）



メリット（確認はこれから）ばかりが強調され、デメリット情報（副反応の情報や接種しても検診は必要など）が伝わっていなかったのではないのでしょうか？

6月14日厚生労働省は、「子宮頸がん予防ワクチンの接種を積極的にはおすすめていません」と積極的勧奨を中止しました。これを聞いた保護者はどう判断すべきか？また、接種してしまったお子さんの保護者は、大丈夫だろうかと心配した方も多かったと思います。

6月18日 野田市は子宮頸がん予防ワクチン接種の一時中止を決めました。このことにより、このワクチンの問題が解決したわけではありません。今後、厚生労働省の予防接種ワクチン分科会副反応検討委員会がどのような検証を行い、どんな結果を導き出し、判断するのかが問題です。受けやすい検診と検診率をどのように上げていくかが課題です。